

〔日本の年中行事〕

第17回ローザンヌ観光映画祭第1位 第11回ミラノ観光風俗映画祭
第2位 1970年観光映画コンクール特別賞

日本に古来から伝わる年中行事の数々を、稲作信仰を中心に四季を追って紹介する。祭りは、能、歌舞伎をはじめ日本の芸能を育てた晴れの場でもあった。



正月。近代的な都会のビルの玄関にも門松が飾られる。しめ飾りは、豊作を祈った神事だったが、今では商売繁盛や家内安全の祈りにもなっている。正月のおせち料理は、神を饗応する名残りで、餅を食べると不思議な力がつくという信仰が生きている。まるい雪の室の中で子供たちが明かりを灯して餅を焼いて食べるかまぐらは、もとは迎える家がなくてさ迷う精霊を、自分たちの先祖と同じように食事に招き慰めるために作ったもので、形も独創的で美しい。

春の訪れを知らせる節分の豆まきは「鬼は外、福は内」と一家の幸福を願う。愛知県奥三河地方の花祭りでは、赤鬼が大地を激しく足踏み鳴らす。3月3日の雛祭りは女の子の祭り。昔農作業を始める前に、けがれをのり移らせた人形を川に流したのが起源である。5月5日の端午の節句は男の子の祭り。武者人形を飾り、戸外に鯉の吹き流しを立てる。起源は稲や人につく病魔をはらうものだった。そして、大田植の祭りへと季節は移る。

夏の代表的な祭りは京都の祇園祭で、都に流行した疫病退散の祈りから生まれた。優雅な島根の鷺舞、勇壮な相馬の野馬追いも夏の祭りだ。竹に願い事を書いた色紙を飾って川に流す七夕。竹も松と同じ精霊を迎える依り代であった。盂蘭盆会（うらぼんえ）。収穫を前に先祖の霊を招き慰め、前祝いもかねた。盆踊りもそれだ。

秋祭り。岩手の鹿踊りも紅葉の季節の祭りだ。そして12月の火祭りでは、新年のための厄払いと春の到来を願う。

記録

35ミリ

カラー／21分

英・米・仏・西・独・
葡・中国語版

■企画
国際観光振興会

スタッフ

■製作
村山英治
■脚本
村山正実
■演出・撮影
金山富男
■音楽
間宮芳生
■解説
バー・ホェール
(英語版)

